

日本医史学雑誌 第61巻 第4号

目 次

原 著

- 第二次世界大戦における日本赤十字社の衛生支援
——ビルマ派遣救護班にみる制度と実態——…………… 川原由佳里 337
- ビルマ敗退戦と赤十字の看護…………… 川原由佳里 355
- 明治初期日本における認定産婆教育の導入
——東京府病院刊行『朱氏産婆論』のドイツ語原著“Lehrbuch der
Hebammenkunst”との比較分析と同時代史的背景——…………… 月澤美代子 373

総 説

- サレルノ医学校——その歴史とヨーロッパの医学教育における意義…………… 坂井 建雄 393

研究ノート

- 華岡家門人録の特徴について
——出雲国の門人37人の分析を通して——…………… 梶谷 光弘 409

ひろば

- 合水堂・華岡流外科顕彰碑と近畿大学医学部図書館華岡流医療機器資料室
…………… 竹中 裕昭 423

資 料

- 池田文書の研究 (53)…………… 池田文書研究会 427
- 青山胤通家関連文書 (1)…………… 青山文書の会 437

追 悼

- 戸出一郎先生を偲んで…………… 西巻 明彦 447

記 事

- 例会記録…………… 449

書 評

- 瀧澤利行, 七木田文彦, 竹下智美 著
『雑誌「養護」の時代と世界——学校の中で学校看護婦はどう生きたか——』
…………… 平尾真智子 449
- 鳥井裕美子 著, 大分県立先哲史料館 編
『前野良沢——オランダ人のぼけものと呼ばれた男——
(大分県先哲叢書〔普及版〕)』…………… 川崙 眞人 450

書籍紹介

浅田宗伯 編著, 渡辺浩二 翻字校注『翻字校注 医学典刊』…………… 天野 陽介	452
投稿規定 ……………	454
編集後記 ……………	456
日本医史学雑誌 第61巻 総目次 ……………	457
日本医史学会会報 ……………	465

《本号の表紙絵》

ラエネクによる聴診器

2016年はラエネク（René Théophile Hyacinthe Laënnec, 1781–1826）が聴診器による間接聴診法を発明して200周年の年である。

ラエネクは激動の時代のパリで医学教育を受け、医師として活動した。アウエンブルガー（Joseph Leopold Auernbrugger, 1722–1809）の打診法をフランスに紹介して普及させたコルヴィザール（Jean-Nicolas Corvisart des Marets, 1755–1821）からも教えを受けている。

ラエネク自身の回想により、間接聴診法の発明の物語はよく知られている。ラエネクがパリで治療を行っていた1816年に、ラエネクのもとにやってきた若い女性の患者は、肉付きがよすぎて打診法を使用できなかった。若い女性ということから患者の胸に直接耳を当てることもできない。そこで、固体の筒を伝わる音が増幅されることを思い出し、紙を丸めて筒にした装置を介して胸部音を聴いたところ、直接耳をあてる以上に鮮明な音が聞こえてきた。

これは間接聴診法の始まりのエピソードであるが、新たな技法の完成の物語が続く。

ラエネクは素材・形状などを変え、装置そのものの改良を重ねた。その結果が表紙絵で示された図に表されている。さらに、新たな装置が伝える音がどのような情報を伝えているのかを明らかにするため、ラエネクは病理解剖を行って患者の胸部音とその疾患との関係を確認していった。1819年に出版された『間接聴診法』（De l'auscultation médiate, ou traité du diagnostic des poumons et coeurs, Paris, 2vols）には、表紙絵の図以外に、病理解剖で見られた病変の図も描かれている。本文では、上記の発見の回想とその後の研究の概略が述べられるとともに、疾患別にその特徴や症候、特に、どの段階でどこに聴診器を当てればどのような音が聞こえるか、という詳細な記載がある。

最初の発明から3年後には既に実用に耐えうるレベルの診断法に達していた。『間接聴診法』という著作を通じて、聴診器の使用は急速にヨーロッパに広がっていった。

（表紙絵には1821年の英訳（抄訳）に再録された図を使用）

（澤井 直）